

かさ 「傘かしげ」



せまい道や歩道などで、すれちがう相手に傘のしずくがかからないように、相手と

反対側に、自分のさしている傘を少しかたむけること。こうして通れば傘同士がぶつか

ることもなく、スムーズに行き交うことができます。

少しだけ傘を自然に傾けるだけで、見知らぬ同士なのにほんの一瞬、そこに思いやる

空気が生まれる。なんともイキなしくさです。

「うかつあやまり」



他人の足を踏んでしまったら、謝るのは当然ですね。江戸しぐさでは、踏んだ人はもちろん、踏まれた方も謝ります。人が通る場所、立ちそうなところに足を出している方がうかつだったという気持ちをこめてあやまるのです。「うかつあやまり」は、「こちらこそ、うっかりいたしました」というお詫びのしぐさ。相手への気遣いにあふれた江戸しぐさの代表格です。

出典：NPO法人江戸しぐさ ホームページ資料「コラム 江戸しぐさ」

※「江戸しぐさ」はNPO法人江戸しぐさの登録商標です。（登録番号 第5274382号）

こし 「こぶし腰うかし」



でんしゃひとの電車などで人が乗ってきたとき「さあ、ここにおかけなさい」と言わんばかりに、こぶし一つ分、ちょっと腰をうかしてずれていくしぐさのこと。江戸時代、舟が出るのを待つ間、人があとからの乗ってくるたびに、こぶしをついて腰をうかせ、せきすこの席を少しずつ、つめていたことからこう呼びます。「つめていただけませんか？」と言われる前にするのが江戸しぐさ。催促されてから行動するのは恥とされていたのです。せきをつめてもらったほうは、もちろん、かんしゃのことばをわすれずにいたいですね。

うでぐ あしぐ 「腕組み・足組み」



えど ひとまえ うでぐ あしぐ とく あいて めうえ ひと
江戸しぐさでは、人前で腕組みや足組みはしないものとされていました。特に相手が目上の人の

ばあい あし く たいへんしつれい
場合には、足を組むのは大変失礼にあたります。

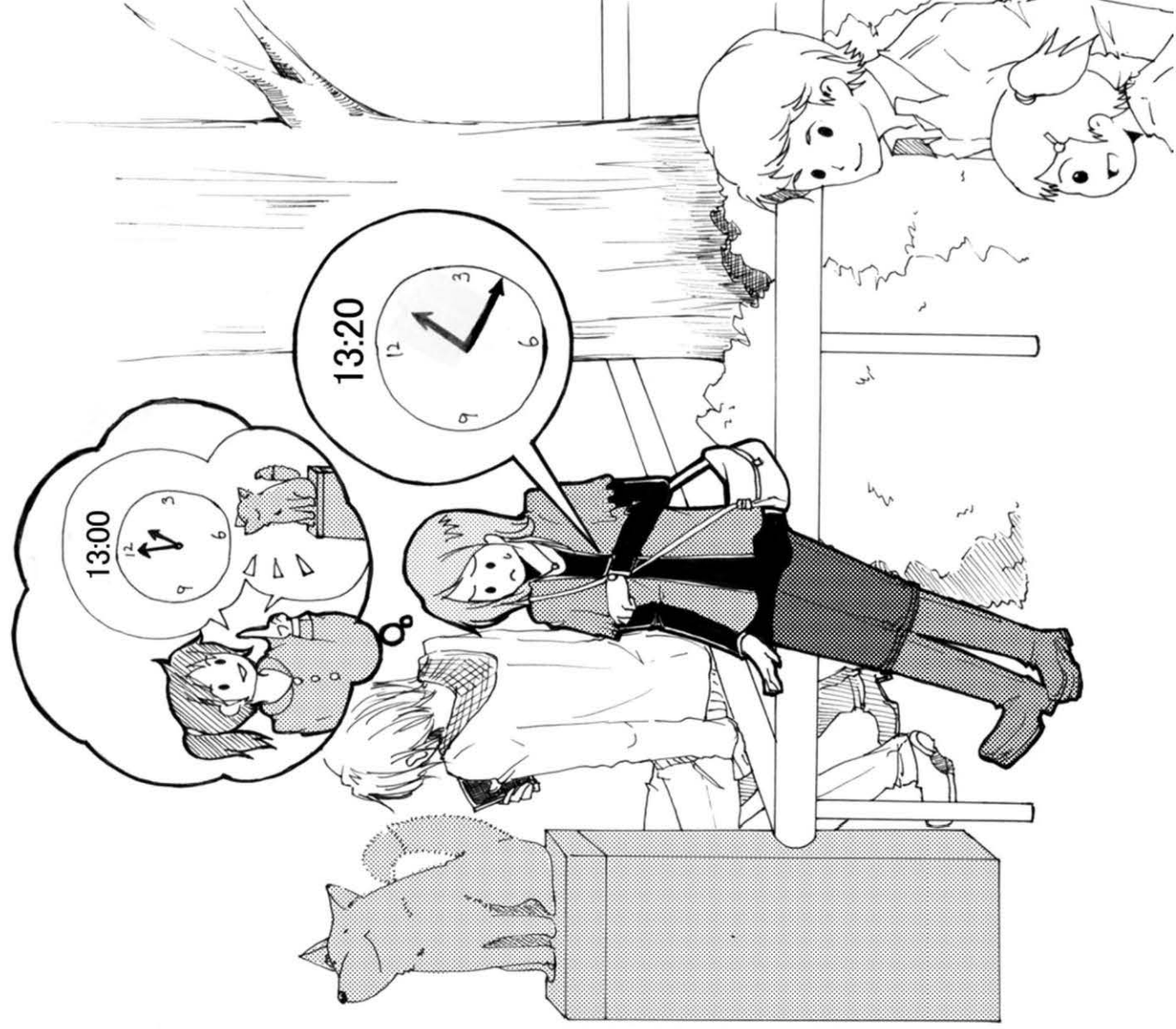
れい か どうじ なに う っ うでぐ あしぐ はこ
礼を欠くしぐさであると同時に、何をも受け付けずとうせんぼするような腕組みや足組みは、運び

わる うん
を悪くする、つまり運をかたむけるといわれています。

出典：NPO法人江戸しぐさ ホームページ資料「コラム 江戸しぐさ」

※「江戸しぐさ」はNPO法人江戸しぐさの登録商標です。（登録番号 第5274382号）

ときどろぼう 「時泥棒」



ことわ あいて ほうもん じかん やくそく じかん おく あいて じかん うば おも つみ
断りなく相手を訪問し、または、約束の時間に遅れるなどで相手の時間を奪うのは重い罪
にあたる。日本人は時間きびに厳しいあいてと思いますが、それは相手への思いやりから来てるんで
すよね。

いそが 「忙しいとは言わない」 い



えど ひと いそが ひじょう きら にんげん
江戸では人から「お忙しいですね。」といわれることを非常に嫌いました。おそらく人間とし
ころ な じぶん せいかつ かねもう はたら おも ゆる
ての心を亡くして、自分の生活や金儲けのために働いていると思われるのが許せなかった
のでしょ。仕事が出来ない人は良く「忙しい」を使います。例えば、あたらし ごと しょうかい
やろうとしても、「忙しい」といわれたら、「じゃあ、止めとくか。」ということになってしまいま
す。「忙しい。」は自分の可能性までも殺してしまいます。

出典：NPO法人江戸しくさ ホームページ資料「コラム 江戸しくさ」

※「江戸しくさ」はNPO法人江戸しくさの登録商標です。(登録番号 第5274382号)

さか 「逆らいしぐさ」

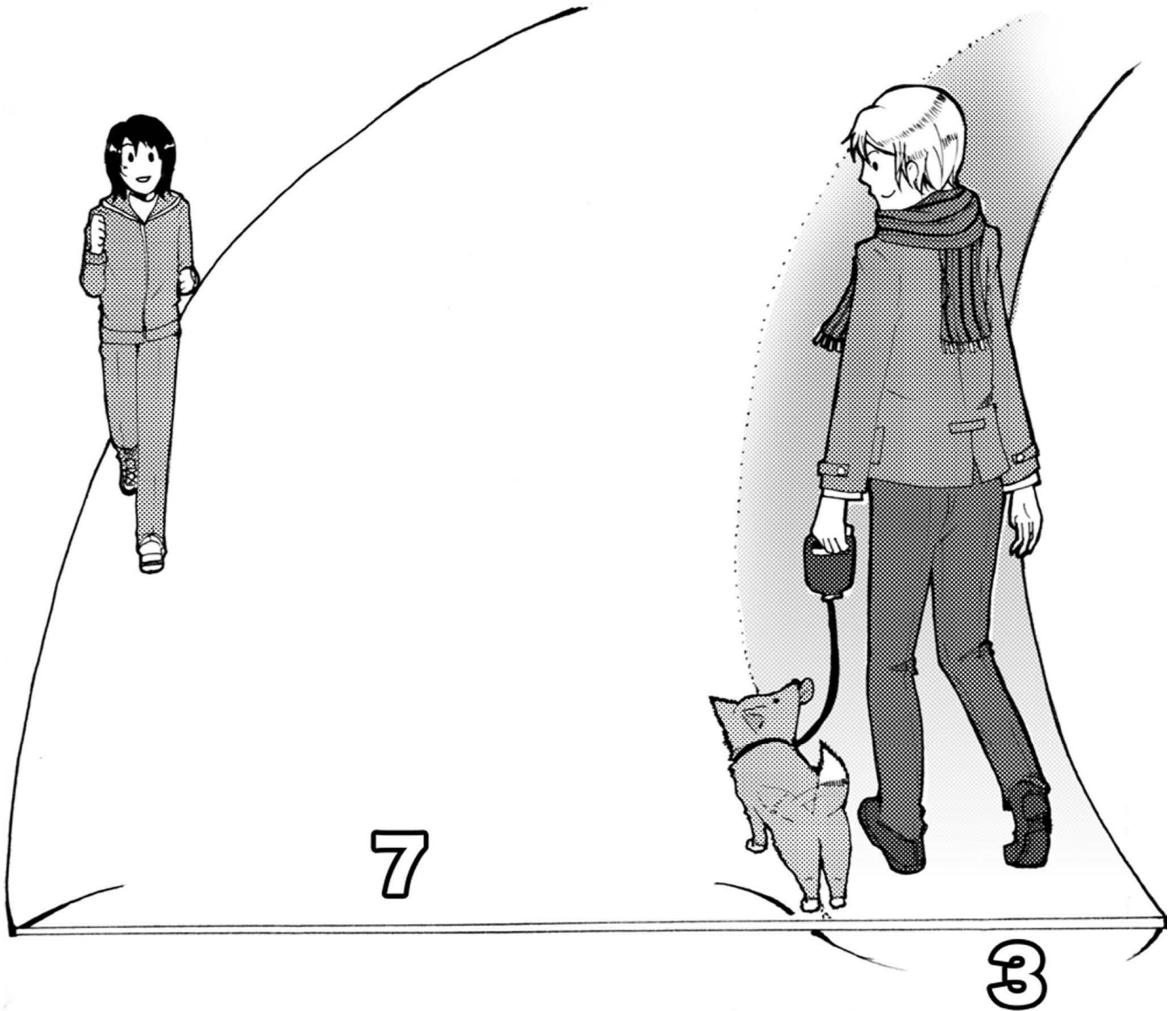


「^{とじ}戸締め^{ことば}言葉しぐさ」とは、「^いでも」「^{あいて}だって」「^{さえぎ}しかし」「^{ことば}そうは言っても」など相手を遮る言葉をいいます。^{とじ}戸締め^{ことば}言葉しぐさは相手を「^{あいて}やる^き気が無いのではないか…^なだったらこの^{じゅうよう}重要な^{しごと}仕事を^{まか}任せるのは^や止めよう」、「^{のうりよく}能力が^な無いのではないか…^{はな}話しても^{むだ}無駄か」、「^{きたい}期待していたのに…^{かんじょう}がっかりだ」というような感情を持たせてしまいますので、^{とじ}戸締め^{ことば}言葉は^き気をつけなければいけません。

出典：NPO法人江戸しぐさ ホームページ資料「コラム 江戸しぐさ」

※「江戸しぐさ」はNPO法人江戸しぐさの登録商標です。(登録番号 第5274382号)

「七三の道」



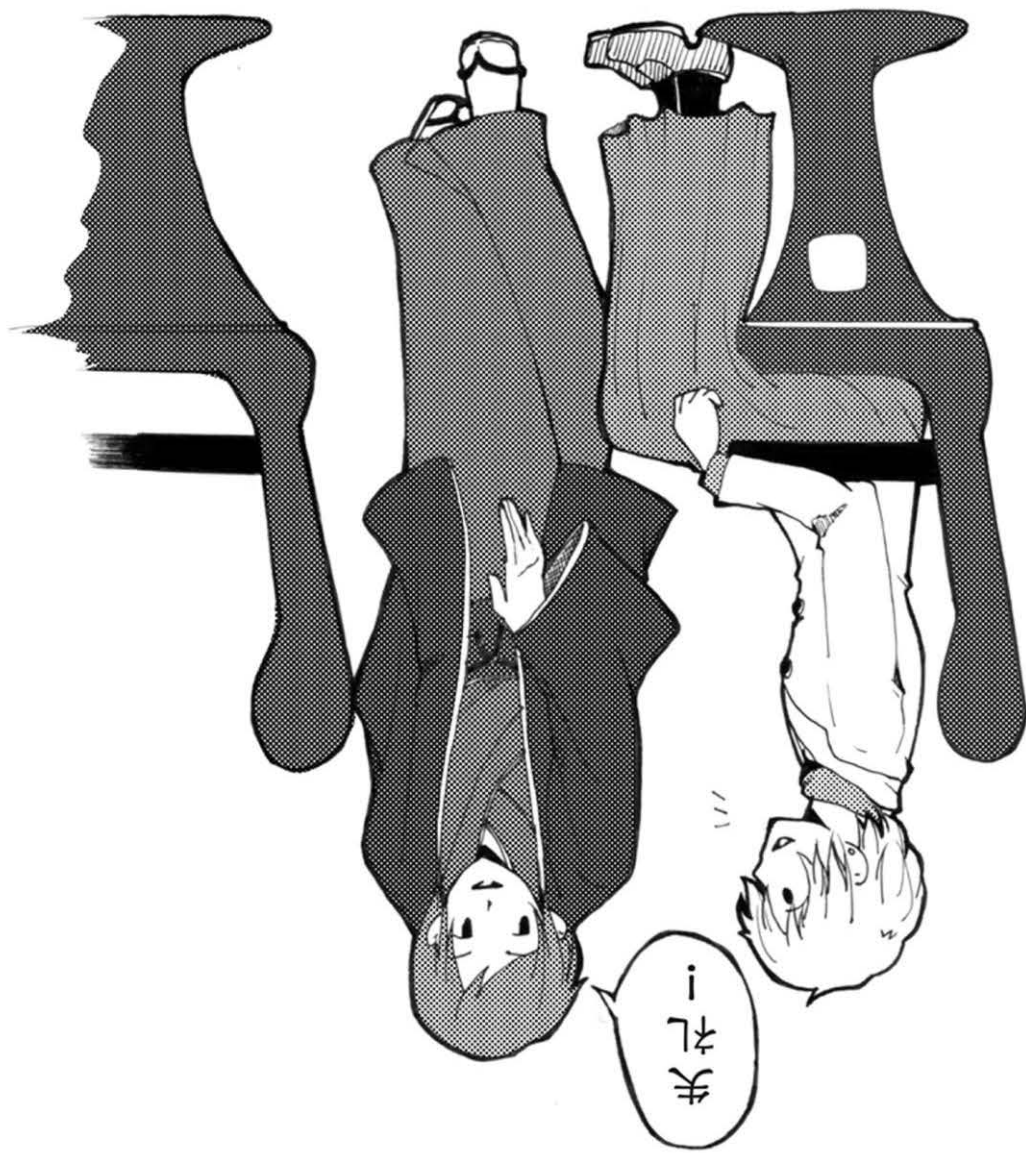
道路は^{どうろ}大勢^{おおぜい}の^{ひと}人が^{とお}通るところだから真^まん中^{なか}を威^い張^ばって^{ある}歩かないでちよ^ゆつと譲^わけ^{ある}て脇^わきを歩^{ある}きなさい、という^{おし}教^じえ。自^じ分^{ぶん}が歩^{ある}くのは道^{みち}の3割^{わり}にして、残^{のこ}りの7割^{わり}は他^たの^{ひと}人の^{ため}に^あけておく^{こと}。

出典：NPO法人江戸しぐさ ホームページ資料「コラム 江戸しぐさ」

※「江戸しぐさ」はNPO法人江戸しぐさの登録商標です。(登録番号 第5274382号)

「横切りしぐさ」

よこぎりしぐさ



め まえ よこぎり しつれい
ちよと目の前を横切って失礼しますよ。ごめんなさい。前を通らせてください。江戸のし

みまわ てがたな みぎて き
ぐさは右回り。手刀は右手で切るものと決まっていた。

出典：NPO法人江戸しぐさ ホームページ資料「コラム 江戸しぐさ」

※「江戸しぐさ」はNPO法人江戸しぐさの登録商標です。(登録番号 第5274382号)

かたひ 「肩引き」



江戸の横丁は大変狭い。その狭い道路で対向者とすれちがうときに、道路中央側の肩を引けば相手とぶつかることも無くすれちがえます。そのとき、お互いが軽く会釈し、軽く微笑めば、狭い道路も気持ちよく通行でき、トラブル防止にもなります。相手を思いやる優しさ、ちょっとした譲り合いの心があれば誰でも出来るしぐさです。

出典：NPO法人江戸しぐさ ホームページ資料「コラム 江戸しぐさ」

※「江戸しぐさ」はNPO法人江戸しぐさの登録商標です。（登録番号 第5274382号）

つか まっ あ 「東の間付き合い」



つか ま ちよつと あいだ い み つか まっ あ みち
「東の間」とは、ほんの一寸した間 という意味です。ですから「東の間付き合い」とは、道で
であ ひと の もの となりどうし ひと し
たまたま出会った人や、乗り物でたまたま隣 同士になった人とのしぐさです。知らないからと
ぶっちょうづら ぶあいそ かお ふきげん かお し ひと かる えしやく
いて、仏頂面（無愛想な顔、不機嫌な顔）をしているのではなく、知らない人でも軽く会釈
あいさつ ば ふんいき なご よ
したり挨拶することによって、その場の雰囲気（ふんいき）が和んでくることは良くあることです。

出典：NPO法人江戸しぐさ ホームページ資料「コラム 江戸しぐさ」

※「江戸しぐさ」はNPO法人江戸しぐさの登録商標です。（登録番号 第5274382号）